

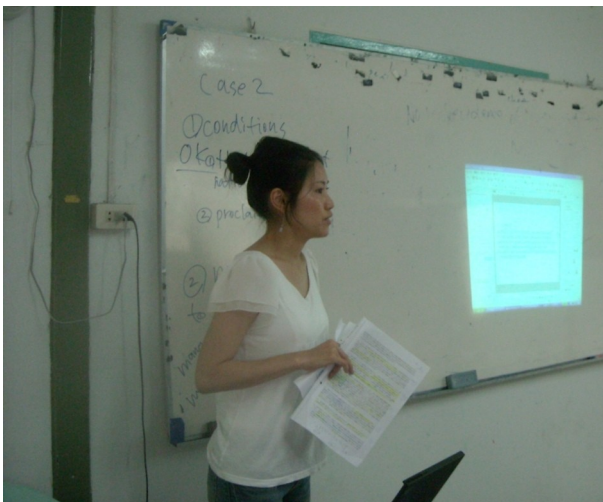


## \* Peace Law Academy 講師派遣報告 \*



ヒューマンライツ・ナウはビルマ・プロジェクトの一環として、ミャンマー（ビルマ）・タイ国境のメイソットで、みらいの法律家を育てる「ピース・ロー・アカデミー」を支援しています。軍政下のビルマに生きながら、自由と人権を求める未来のリーダーとなる若者たちや難民キャンプの若者たち24名が2年間、人権・民主主義などを学ぶ、次世代のミャンマー（ビルマ）のリーダー・法律家を育てていく学校です。毎月講師、スタッフを派遣し、今年3度目となる今回は、HRN会員の安孫子理良弁護士、小田川綾音弁護士が派遣され9月10日から13日まで講義を行いました。

## 小田川 綾音 弁護士



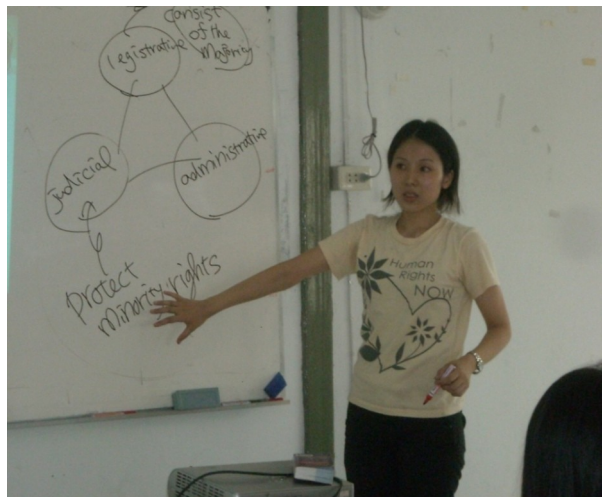
小田川弁護士は生徒と丁寧にコミュニケーションをとりながら、政治に参加する自由を保障した自由権規約25条と選挙権の基本原則（普通選挙、平等選挙、自由選挙、秘密選挙、直接選挙）を中心に授業を行いました。グループ・ディスカッションでは、2008年のミャンマー（ビルマ）新憲法上の選挙権を制限する規定 宗教団体のメンバー 犯罪者 破産宣告者 関係法律のもとで「精神異常」（unsound mind）とされた者 選挙法で選挙を禁止された者に対する選挙権の制限が自由権規約25条に沿うか否かにつき、学生が10のグループに分かれ、それぞれ沿う、沿わない理由を検討し、発表をしました。また、日本の公職選挙法のもとでの選挙運動に関する制限規定をいくつか挙げて説明しました。特に、戸別訪問を禁止している

法律の合憲性が問題となった事件で、下級審と上級審とで違憲・合憲の判断が分かれたこと、各判断の論理を紹介し、学生とディスカッションをしました。ミャンマー（ビルマ）では本年11月に総選挙を控えており、学生たちにとって選挙は身近な話題のようでしたが、学生の中で選挙を実際に参加したことのある者はいなかったため、授業の内容であった選挙の原則と実際に行なわれる選挙とを結びつけるには想像力が必要であったように思われます。

# 安孫子 理良 弁護士

安孫子弁護士は流暢な英語で表現の自由を制限する法理を中心に授業を行いました。表現の自由の支える重要な二つの価値である自己統治、自己実現という概念を説明し、表現の自由が憲法で保障された人権の中でも、特に人権の制限が厳格に考えられていることを紹介し、実際のケース・スタディ「国旗を焼却することを禁止・処罰する法律」、「コーランを焼却することを禁止・処罰した法律」を通して、

これらの行為を規制することが違憲か合憲かを10のグループに分かれて議論を行いました。授業で学習した表現の自由を制限する法理である「現在かつ明白な危険」の法理、「より制限的でない他に取れる手段の基準（LRAの基準）」を参考にしながらグループ・ディスカッションを行いました。全体として意見交換を行った後に、星条旗を焼却することを禁止した法律を違憲としたアメリカの判例を紹介しました。アメリカでは非常に広く表現の自由を保障していることを事例を通して紹介し表現の自由の重要性を伝えました。しかし、ミャンマー（ビルマ）が多民族国家であるため、国家批判、民族・宗教批判は国家の統合や治安に対する危険性が強いとの大きな危機感を学生が持っているからか、国家批判や民族・宗教批判といった表現について内容自体がよくないとの理由で禁止・処罰してよいという考え方が学生たちに根付いており、表現を内容によって規制することの危機意識は薄いようでした。



## \*日程\*

### 9月10日(金)安孫子弁護士:

表現の自由の重要性と表現の内容に基づく表現の自由を制限する法理

### 9月11日(土)小田川弁護士:

自由権規約25条の選挙権の基本原則と選挙権・被選挙権の制限

### 9月12日(日)安孫子弁護士:

表現内容に基づく表現の規制についてのケース・スタディ

### 9月13日(月)小田川弁護士:

自由権規約4条の緊急事態と全日程を範囲に含む小テスト



「ピース・ロー・アカデミー」ではミャンマー（ビルマ）のいくつかの少数民族から選抜された学生たちが豊かな自然の中でのびのびと学習していました。ミャンマー（ビルマ）の難民キャンプやミャンマー（ビルマ）では出会うことのできない海外からの講師との交流を楽しみ、新しい考えや知識を吸収しようとする意欲が強く感じられました。授業以外の時間には近くのお店へお菓子を買いに行ったり、韓国ドラマを見たり、インターネットを使って過ごしていました。しかし、休暇があっても安全上の理由から旅行をする自由がないことや家族との連絡を取ることができないこと、「ピース・ロー・アカデミー」卒業後の先の計画が不透明であるなど心に不安を抱えながらの生活のようでした。特に今回の滞在中はミャンマー（ビルマ）総選挙が迫る時期であったため、テレビではミャンマー（ビルマ）の民主系のニュース番組（DVB, Democratic Voice of Burma）を真剣にみる姿もありました。